

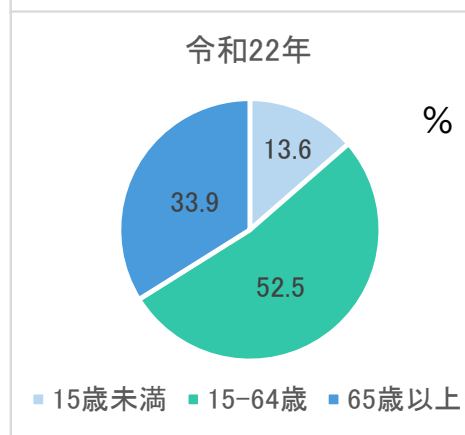
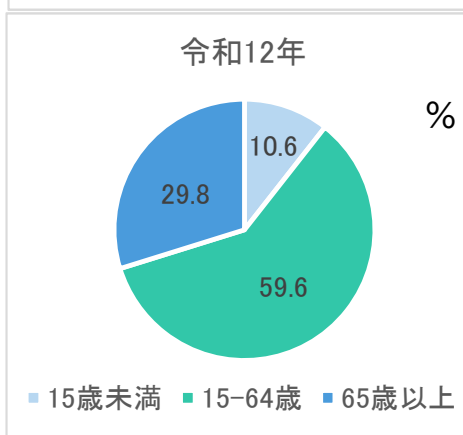
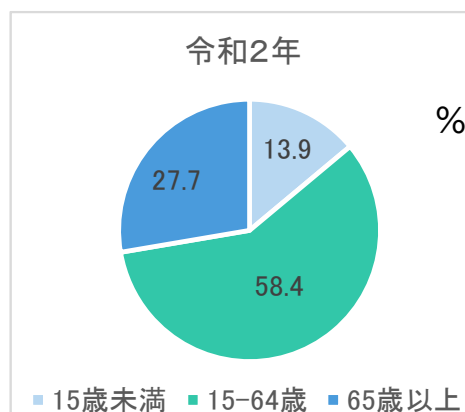
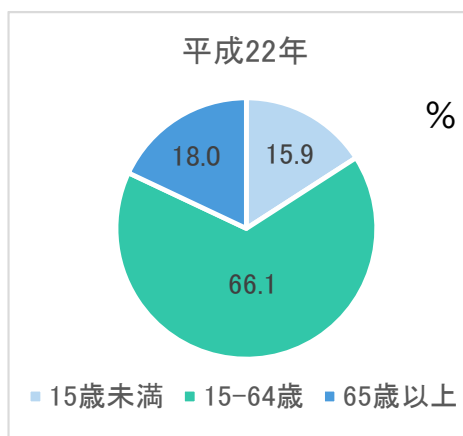
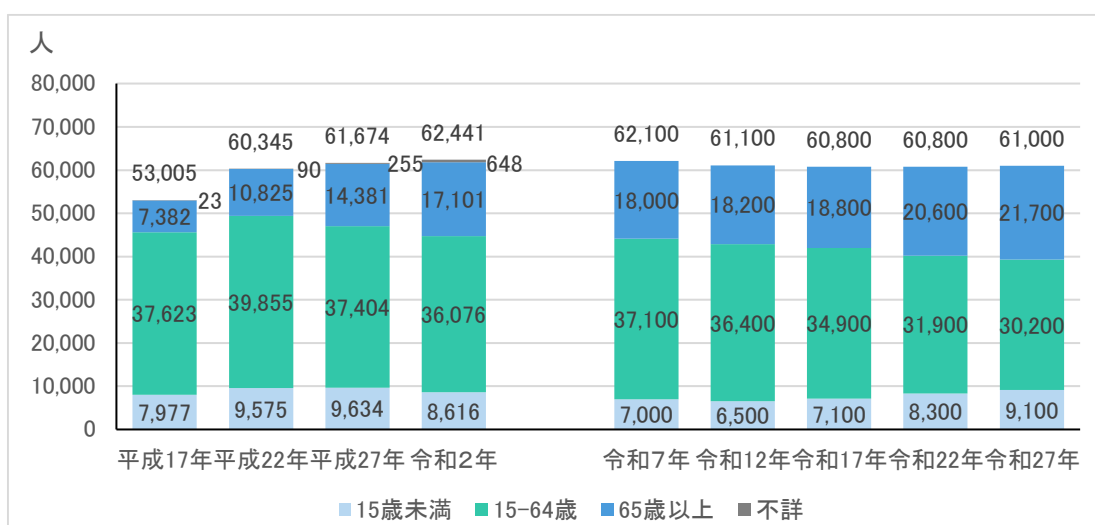
市の現状と課題について

1 市の現状について

(1) 統計資料から見る現状

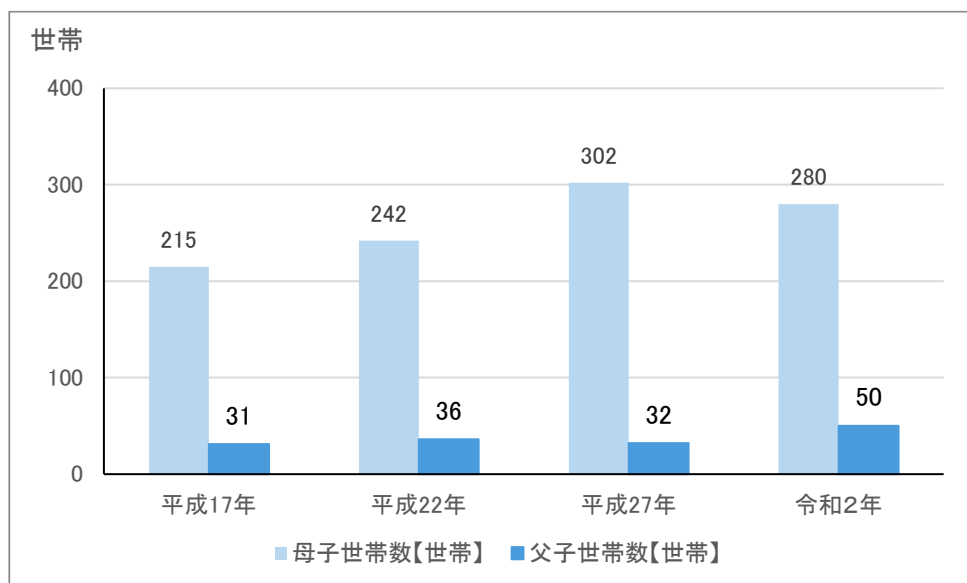
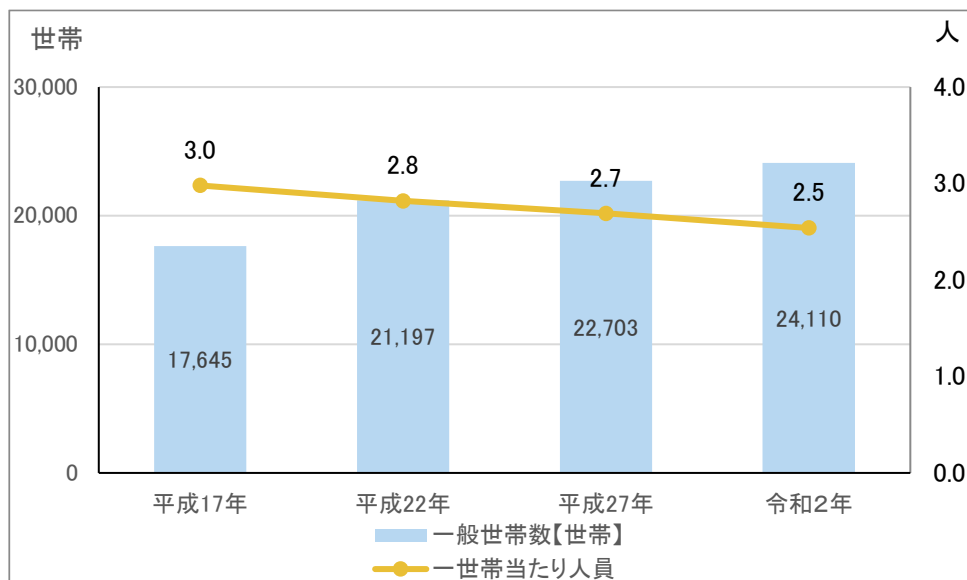
①人口（年齢3区分別人口）の実績と推計値

- 市の人口は令和2（2020）年まで増加傾向で、令和2（2020）年は62,441人
- 年齢3区分別では、65歳以上が大きく増加しており、平成17（2005）年に比べ約2.32倍
- 今後の推計では、総人口は令和17（2035）年までは緩やかに減少傾向



②世帯の状況

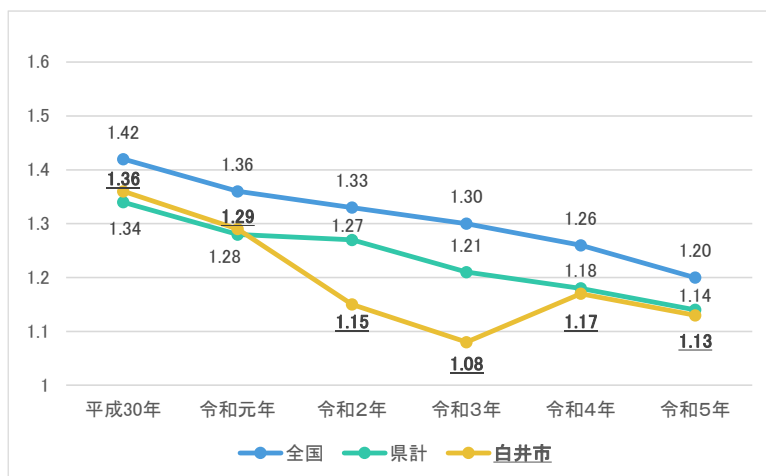
- 世帯数は増加で推移している一方、一世帯当たり人員は減少傾向
- 母子世帯数は、平成27（2015）年に302世帯だが、令和2（2020）年では280世帯とやや減少
- 父子世帯数は、令和2（2020）年で50世帯と増加傾向



資料：国勢調査

③出生数

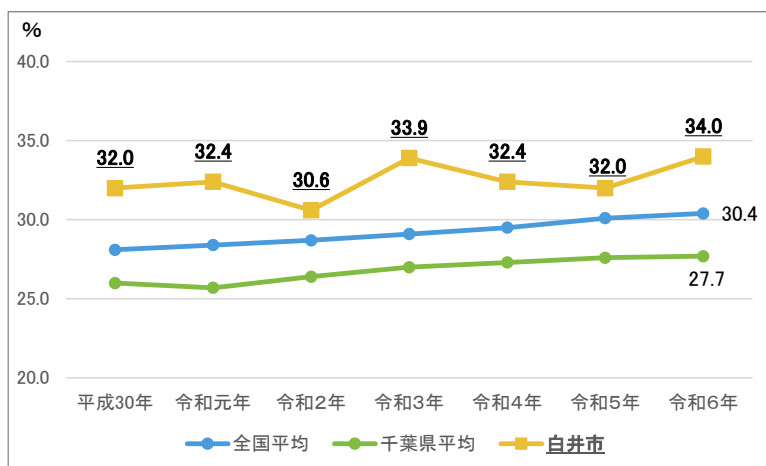
- 合計特殊出生数は、平成30（2018）年以降減少傾向で推移しており、令和5（2023）年では1.13となり、近年は全国や県を下回って推移



資料：千葉県

④審議会等における女性の割合

- 全国平均や県平均よりも高い水準で推移しており、令和6（2024）年では34.0%
- 令和6（2024）年度の市町村議会における女性議員の割合は、55.6%で、全国1位

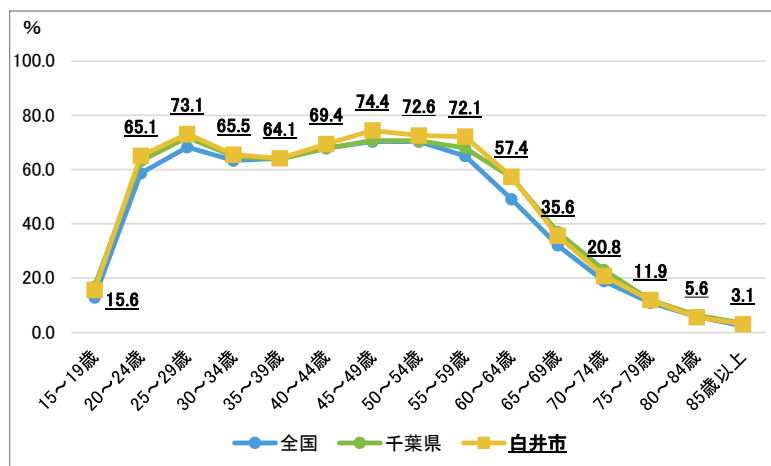


資料：地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況

⑤就業率

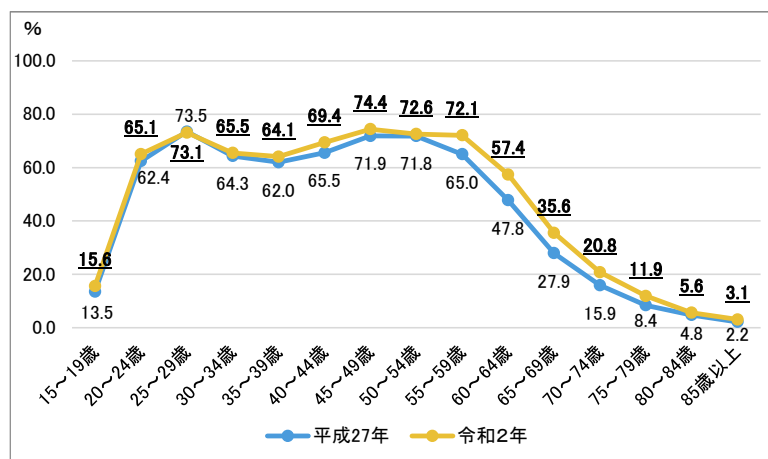
ア 女性の就業率

- ・ 女性の就業率は、国や県と比較すると、概ね同水準で推移
- ・ 20～29 歳で全国よりも高い水準



資料：国勢調査（令和２年）

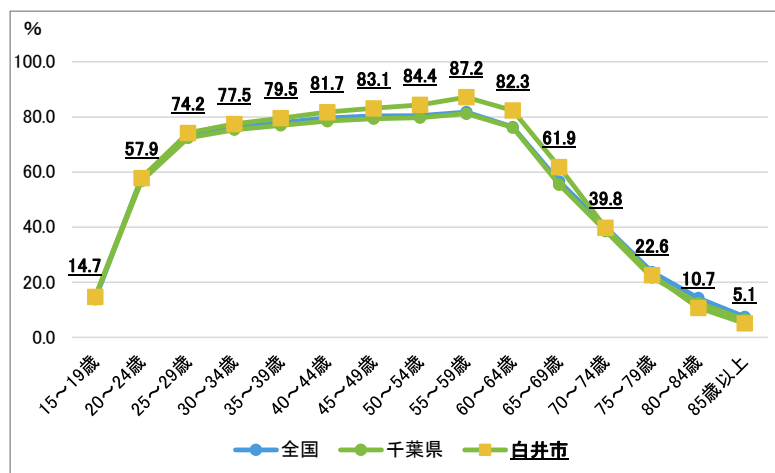
- ・ 女性の就業率の推移における「M字カーブ」の状況は、平成２７（２０１５）年と比較すると緩やかに変化
- ・ 55 歳以降の就業率が増加



資料：国勢調査（令和２年）

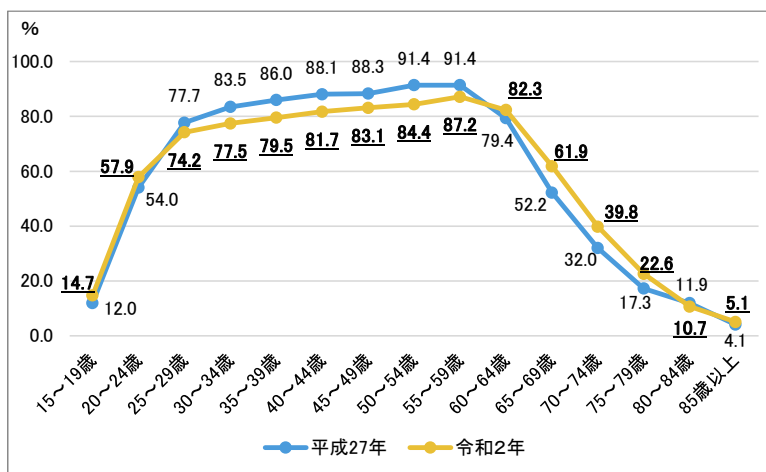
イ 男性の就業率

- ・ 男性の就業率は、各年代の男性の就業率で、女性に比べ高い
- ・ 国や県と比較すると、概ね同水準で推移しているが、特に 50～69 歳では、全国・千葉県より高い



資料：国勢調査（令和2年）

- ・ 男性の就業率の推移では、いわゆる「M字カーブ」状況は見られず、25～64 歳では7割台から8割台
- ・ 平成27（2015）年との比較では、25～59 歳の就業率が減少したが、60 歳以上の就業率が概ね増加

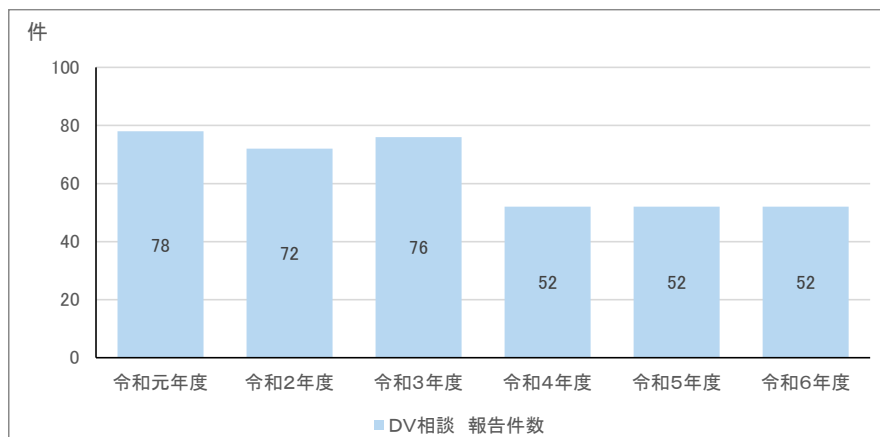


資料：国勢調査（令和2年）

⑥各種相談の現状

ア DV（ドメスティックバイオレンス）相談

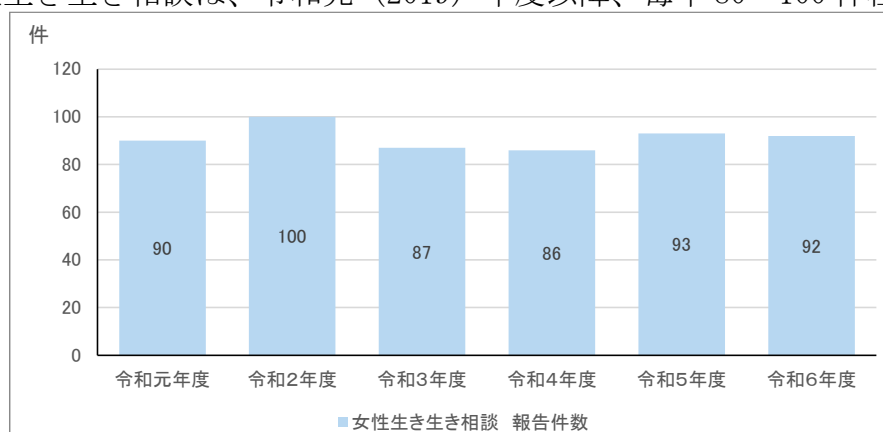
- 市の実施するDV（ドメスティックバイオレンス）相談は、令和4（2022）年度以降、約50件程度で推移



資料：子育て支援課

イ 女性生き生き相談

- 女性生き生き相談は、令和元（2019）年度以降、毎年80～100件程度で推移



資料：子育て支援課

(2) アンケート調査からみる現状

①調査概要

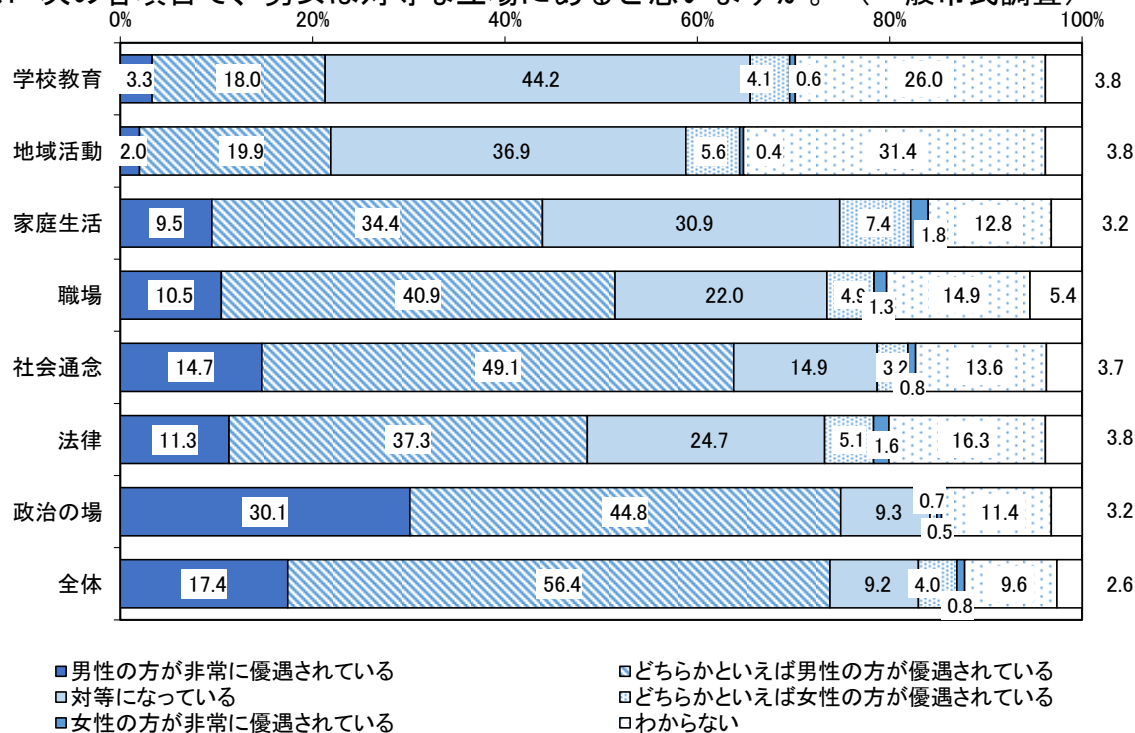
項目	一般市民調査	市内在勤者調査	中学生調査
調査対象者	市内在住の満 18 歳以上の市民（無作為抽出）	市内在勤者	白井市立中学校 2 年生
調査期間	令和 6 年 11 月 15 日（金）～12 月 6 日（金）		令和 6 年 12 月 13 日（金）～12 月 21 日（土）
調査方法	郵送配布・郵送回収、及びWEBによる本人回答方式		WEBによる本人回答方式
配布数	2,000 件	500 件	655 件
有効回収数	950 件	230 件	531 件
有効回収率	47.5%	46.0%	81.1%

②調査結果からみた現状

ア 男女共同参画に関する意識

- ・ 職場、社会通念、政治の場、全体で、男性優遇評価の割合はいずれも半数以上
- ・ アンコンシャス・バイアスの経験（今までに「女の子だから～しなさい（しちゃダメ）」「男の子だから～しなさい（しちゃダメ）」と言われた経験）は、「言われたことはない」が 52.5%と最も高く、次いで「ときどきいわれる」が 37.7%、「よく言われる」が 9.0%（中学生調査）

Q. 次の各項目で、男女は対等な立場にあると思いますか。（一般市民調査）

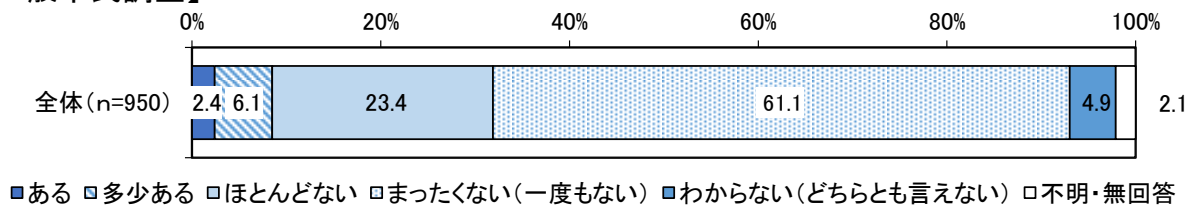


イ 性と生殖に関する健康・権利

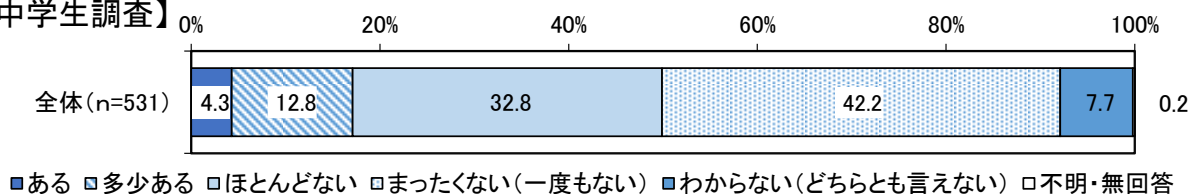
- ・ 性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで、特に必要だと思うことについて、「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が 50.9%と最も高い。（一般市民調査）
- ・ 身体の性別や心の性について悩んだ経験について、一般市民調査・中学生調査では「ほとんどない」が 23.4%（一般市民調査）/32.8%（中学生調査）で、「多少ある」が 6.1%（一般市民調査）/12.8%（中学生調査）

Q. あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。

【一般市民調査】



【中学生調査】



ウ 学校教育

- ・ 学校教育の中で特に大切なことは、「男女共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が 53.6%と最も高く、次いで「相手へのいたわりや理解が増すような性教育」が 45.5%、「男女共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導」が 40.8%（一般市民調査）
- ・ 身体の性別や心の性について悩んだ経験について、「ほとんどない」が 23.4%（一般市民調査）/32.8%（中学生調査）で、「多少ある」が 6.1%（一般市民調査）/12.8%（中学生調査）

Q. 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、特に何が大切だと思いますか。

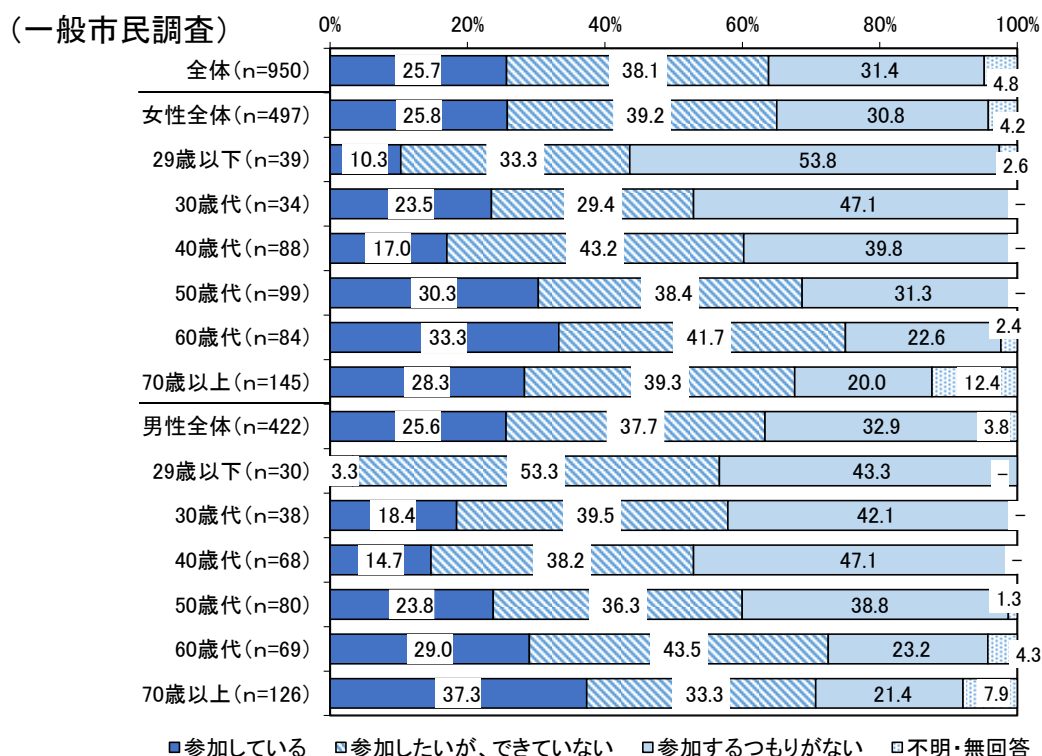
（一般市民調査）

単位：％	会と男性が自分ができるように学べる機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける	男性が女性と共により、身の回りのことを学ぶ機会を設ける
全体(n=950)	53.6	40.8	45.5	36.2	18.0	16.7	10.9	1.9	1.8	7.1	2.7
女性全体(n=497)	56.5	45.9	51.1	33.8	19.5	14.9	9.9	1.4	1.0	7.0	2.6
男性全体(n=422)	51.2	35.8	40.3	40.0	15.9	19.0	12.3	2.4	2.8	6.6	1.2

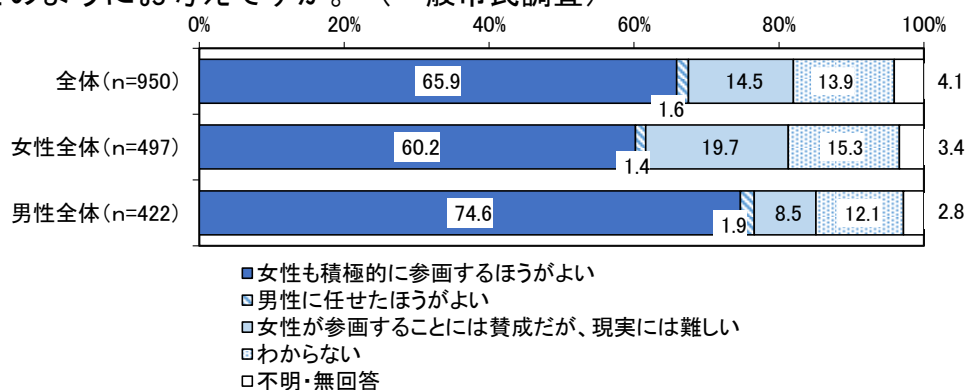
Ⅱ 地域活動や防災

- ・ 地域活動への参加状況として、性別による差は少ないものの、若い世代で参加意向の割合が低い（一般市民調査）
- ・ 地域活動に女性がリーダーとして参画することは、男女とも「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高く、女性 60.2%、男性 74.6%だが、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が高い（一般市民調査）
- ・ 防災活動における男女共同参画の推進に必要なことについて、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」や「男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実」を必要と思う人が5割以上と特に高い（一般市民調査）

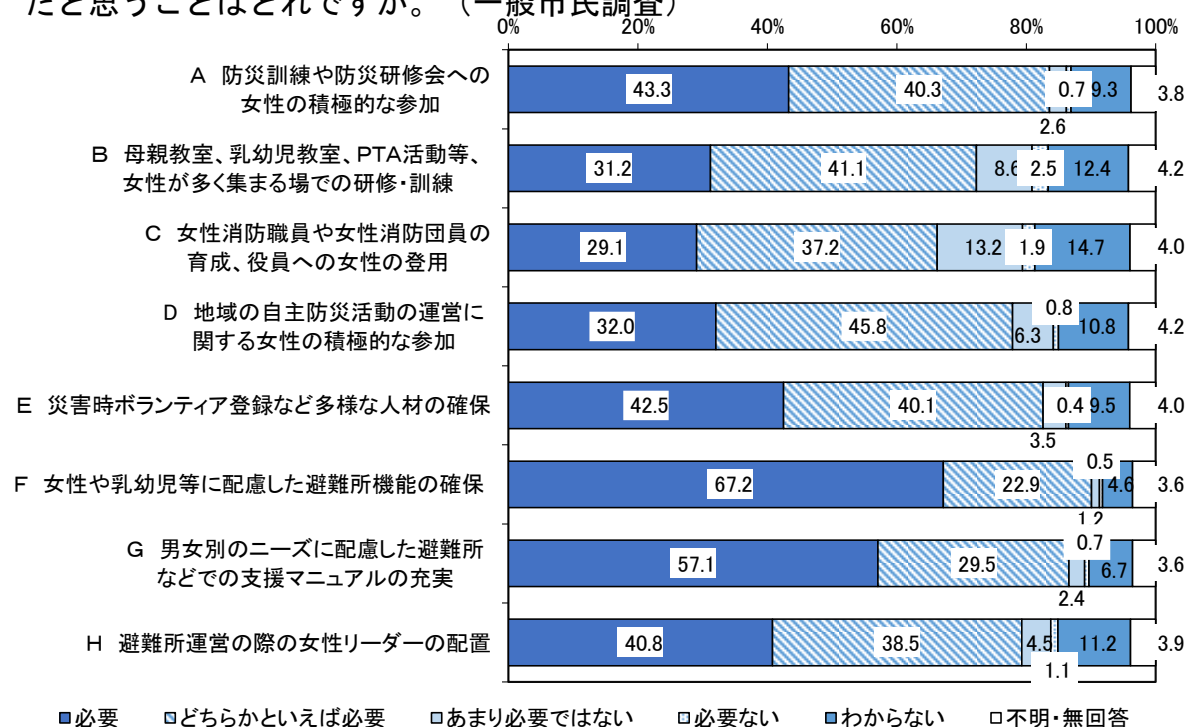
Q. あなたの地域活動（自治会やボランティア等）への参加状況は、どれですか。



Q. 地域活動（自治会やボランティア等）に、女性がリーダーとして参画することについてどのようにお考えですか。（一般市民調査）



Q. 防災（災害復興も含む）活動に関して男女共同参画を推進していくために、必要だと思うことはどれですか。（一般市民調査）



オ 家庭生活

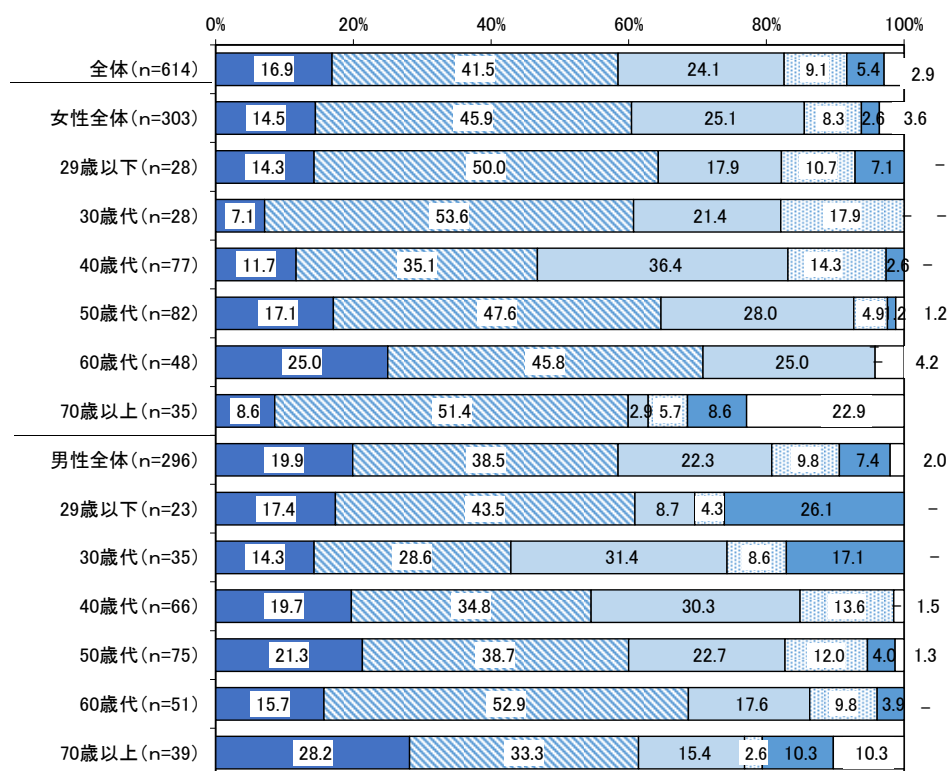
- 家庭における男女の役割分担について、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、理想は「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が、53.4%（一般市民）/59.6%（市内在勤者調査）と最も高いが、現実では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が37.5%（一般市民調査）/53.0%（市内在勤者調査）と最も高い。

カ ワークライフバランス

- ワーク・ライフ・バランスについては、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、全体では「ややとれている」が最も高いが、性・年代別にみると、40歳女性と30歳代男性（一般市民調査）、30歳代男女と60歳以上男女（市内在勤者調査）で「あまりとれていない」が最も高い。
- うまくとれていない理由は、仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、「時間がないから」が最も高い。（一般市民調査）

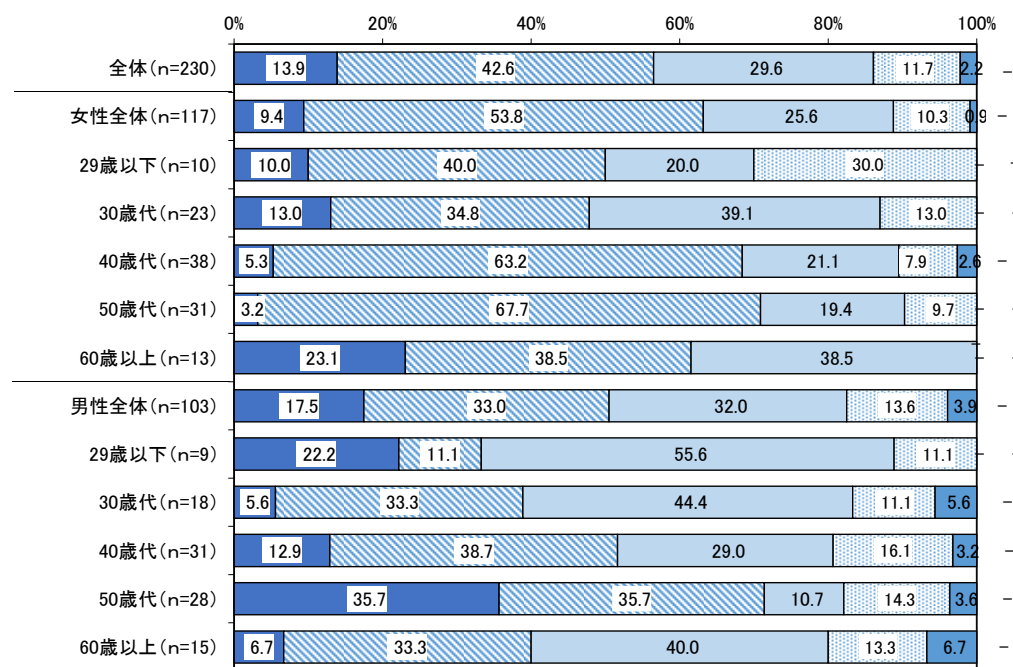
Q. あなたにとって、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。（一般市民調査、在勤者調査）

【一般市民調査】



■うまくとれている □ややとれている □あまりとれていない □まったくとれていない ■わからない □不明・無回答

【在勤者調査】



■うまくとれている □ややとれている □あまりとれていない □まったくとれていない ■わからない □不明・無回答

Q. 仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間のバランスがうまくとれていない理由は何だと思いますか。（一般市民調査）

単位：％		うまいから時間配分ができる	必要以上に時間を費やしてしまいうから	プライベートな時間に	家族の理解や協力が得られないから	職場の理解や協力が得られないから	事、女性、風潮や固定観念があい	世間、男性は仕事に	家事、育児、介護等かなければならぬ	りしてたり、不足しがたり	子どもを預ける場所がないから	生活のため、仕事（収入）を優先せざるを得ないから	で、時間がかかる等の理由	多い、休めない、残業が多い、残業が多い、通勤時間が多い	仕事に忙しい、残業が多い、残業が多い	施設が少なく、文化	近くにスポーツ、文化	社会制度や環境が整っていないから	その他
全体 (n=204)		22.5	4.9	12.3	11.3	10.3	25.5	5.4	48.0	50.0	2.9	11.3	5.4						
女性	女性全体 (n=101)	26.7	4.0	16.8	9.9	11.9	40.6	5.9	39.6	46.5	5.0	8.9	5.9						
	29歳以下 (n=8)	37.5	12.5	-	12.5	-	-	-	12.5	75.0	-	-	-						
	30歳代 (n=11)	27.3	-	9.1	18.2	18.2	54.5	27.3	45.5	63.6	18.2	9.1	9.1						
	40歳代 (n=39)	25.6	5.1	23.1	10.3	15.4	46.2	7.7	43.6	46.2	2.6	10.3	5.1						
	50歳代 (n=27)	18.5	-	22.2	7.4	11.1	44.4	-	48.1	48.1	-	14.8	3.7						
	60歳代 (n=12)	33.3	8.3	8.3	-	-	33.3	-	33.3	25.0	16.7	-	-						
	70歳以上 (n=3)	66.7	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	66.7						
男性	男性全体 (n=95)	18.9	5.3	6.3	11.6	7.4	8.4	4.2	55.8	52.6	1.1	11.6	5.3						
	29歳以下 (n=3)	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-						
	30歳代 (n=14)	-	7.1	7.1	21.4	21.4	28.6	14.3	71.4	64.3	-	35.7	7.1						
	40歳代 (n=29)	27.6	10.3	6.9	17.2	3.4	3.4	6.9	44.8	69.0	-	10.3	-						
	50歳代 (n=26)	15.4	-	7.7	3.8	7.7	7.7	-	57.7	46.2	-	-	3.8						
	60歳代 (n=14)	21.4	7.1	7.1	-	-	-	-	71.4	35.7	7.1	21.4	7.1						
	70歳以上 (n=7)	28.6	-	-	14.3	14.3	-	-	42.9	28.6	-	-	28.6						

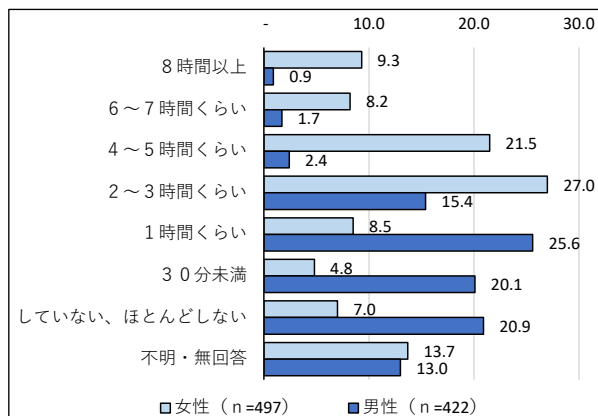
単位：％		わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=204)		2.0	0.5
女性	女性全体(n=101)	2.0	-
	29歳以下(n=8)	-	-
	30歳代(n=11)	-	-
	40歳代(n=39)	2.6	-
	50歳代(n=27)	-	-
	60歳代(n=12)	8.3	-
	70歳以上(n=3)	-	-
男性	男性全体(n=95)	2.1	1.1
	29歳以下(n=3)	-	-
	30歳代(n=14)	-	-
	40歳代(n=29)	3.4	3.4
	50歳代(n=26)	3.8	-
	60歳代(n=14)	-	-
	70歳以上(n=7)	-	-

キ 家事

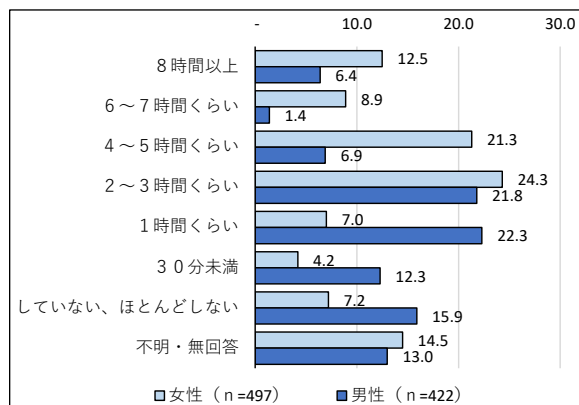
- 1日当たりの家庭内の家事（育児・介護を含む）については、一般市民調査、市内在勤者調査ともに、平日、休日問わず、女性の方が家事の負担が多い
- 平日の男性については、前回調査では「していない、ほとんどしていない」が最も高かったが、今回調査では減少

家庭内の家事（育児・介護等含む）の時間

●平日



●休日

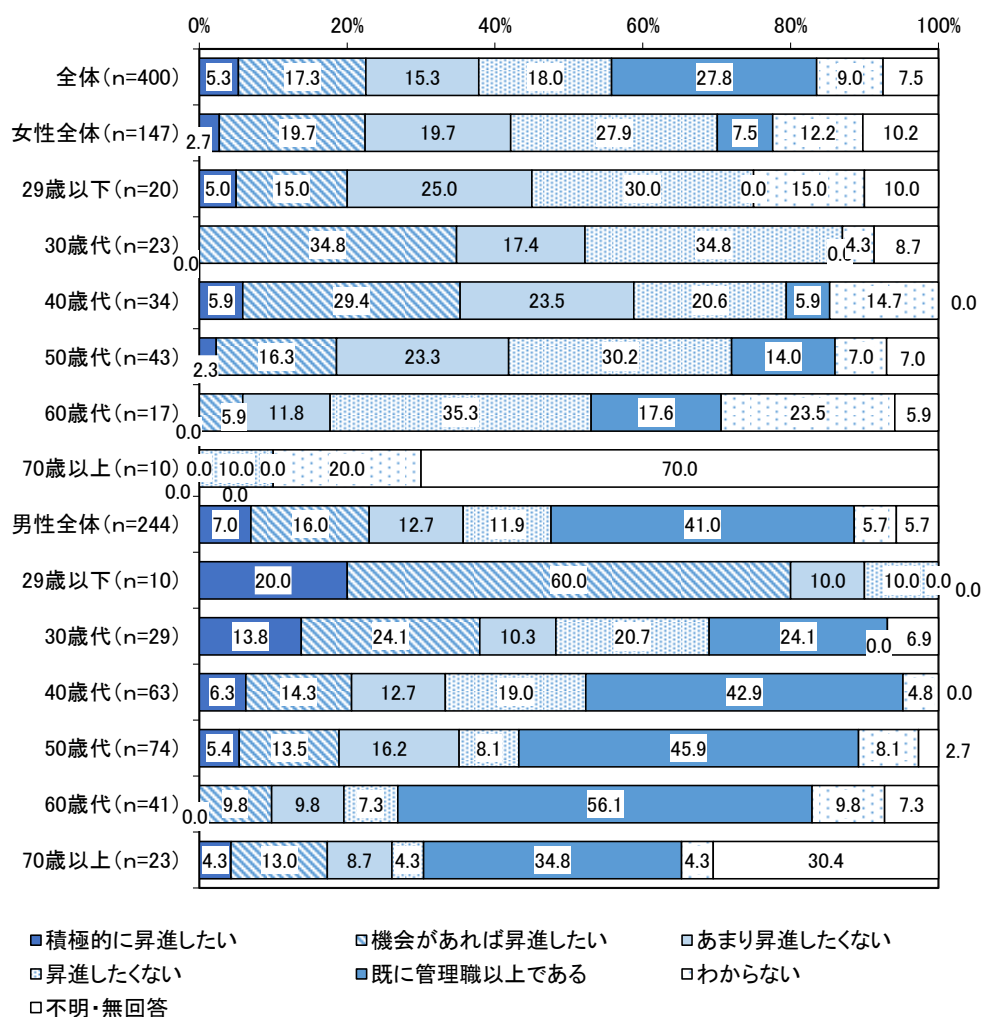


ク 仕事

- 昇進希望は、女性は男性に比べて「昇進したくない」が高く、27.9%（一般市民調査）
- 現在「管理職以上」の割合は、いずれの年代も男性の方が高い（一般市民調査）
- 将来の職層希望は、女性は男性に比べ「管理職（管理職手当がある者）」の割合が17.9%と低い（市内在勤者調査）
- 管理職になりたくない理由は、「責任が重くなるから」「現在の地位が自分に適している」が43.5%と最も高い（市内在勤者調査）

Q. あなたは、管理職以上に昇進したいと思いますか。（一般市民調査）

※パート等のぞく



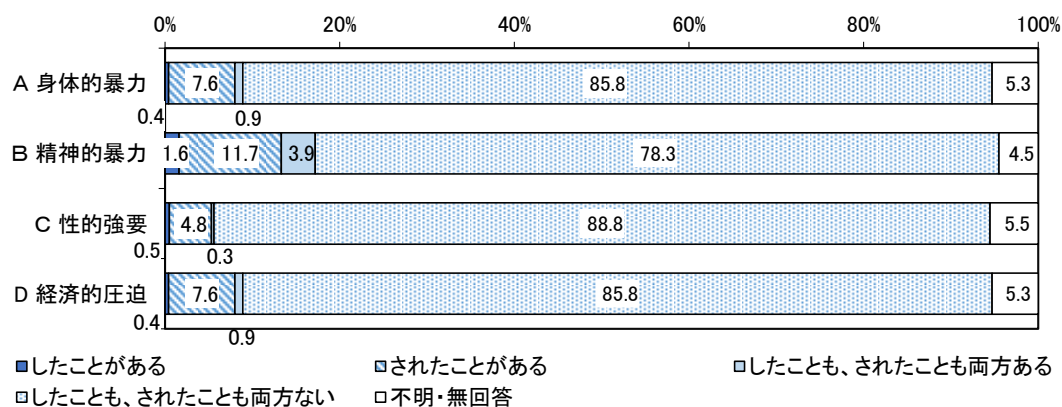
ケ 育児・介護

- ・ 育児・介護休業の取得希望は、「取得したい」が 69.1%と最も高い（市内在勤者調査）
- ・ 取得しない主な理由は、「同僚の負担増」が 55.0%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」が 43.3%（市内在勤者調査）

コ ハラスメント・DV

- ・ 配偶者や恋人等からのDV（身体的暴力、精神的暴力、性的強要、経済的圧迫）の、「したことがある」「されたことがある」「したことも、されたことも両方ある」という経験者は、いずれの暴力でも1割前後（一般市民調査）
- ・ 相談先（複数回答可）として、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 53.4%と半数以上（一般市民調査）で、「家族や親戚」が 21.6%、「友人、知人」が 20.6%で、市や県、警察は、いずれも 5%未満（一般市民調査）

Q. これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次のような経験がありますか。（一般市民調査）



2 市の課題について

(1) 人権や男女共同参画に対する意識

- 男性の家事等への参加は、以前に比べ浸透したが、家庭における理想的な「男女共に働き、家事も分担する」姿と、実際に「家事は主に女性が担う」という現実には大きなギャップが見られ、特に男性や高齢層による女性への家事偏重意識がある。（アンケート結果）
- 市が行う人権や男女共同参画をテーマとする講座やイベント等の集客が伸び悩んでいる。（事業評価結果）
- 中学生のアンコンシャス・バイアスの経験（今までに「女の子だから～しなさい（しちゃダメ）」「男の子だから～しなさい（しちゃダメ）」と言われた経験）が『ある』が4割台半ばと高い。（アンケート結果）
- 中学生アンケートでは、「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が27.1%、「思春期の心理について」26.9%を知りたいと思う人がいる一方で、「特に知りたいことはない」が30.1%と最も高い。また、男性は女性に比べて「特に知りたいことはない」が特に高いため、教育現場における更なる男女共同の啓発活動が必要（アンケート結果）

(2) 仕事と生活の調和

- 理想は、「仕事・家事・プライベートを両立」を希望する者が、49.8%（市民）、59.6%（在勤者）と最も高いが、実際に、両立できているのは、12.1%（市民）、14.3%（在勤者）と大きく乖離している。（アンケート結果）
- 「ワーク・ライフ・バランス」など一般的な用語の認知度でさえも、「よく知っている」割合は、29歳以下を除き5割を下回っており、特に70歳以上で低く、世代により認知度に差がある。（アンケート結果）
- 白井市の女性の就業率は、増加傾向だが、女性の昇進の希望が男性に比べ低く、管理職になりたいと答える割合も低い。その背景には、責任が重くなることや、家事や育児、介護等との両立が難しいといった課題、女性管理職に対するジェンダー・バイアスの存在等が考えられる。（アンケート結果）

(3) 女性の社会参画状況

- 女性の積極的な社会参画の意識は高まっているが、地域活動への女性リーダーの参画は、男女とも「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高いものの、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」と答える割合も高くなっている。（アンケート結果）
- 女性の市政への参画状況は、令和6年度における市町村議会における女性議員の状況（令和6年度）については55.6%（10/18人）と全国一位であり非常に高い一方で、庁内における審議会の女性の登用率は、34.7%と、国や県に比べ高いものの、半数からは乖離がある。（統計結果）

(4) DVやハラスメントへの対応

- 市では、DVやハラスメント等の防止に向けた啓発や、被害者への相談支援を庁内で連携して取り組んでいるが、DV等について「100%加害者に責任があり、許せないものである」とするのは、男性33.2%、女性39.2%と性別でやや差がある。（アンケート結果）
- DV経験のある人が「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合が半数以上となっており、相談しなかった理由として、「相談するほどのことではないと思った」が45.9%と最も高く、次いで、「相談しても無駄だと思った」が32.1%と続いている。特に男女別では、女性で「相談しても無駄だと思った」が最も高く45.9%となっている。（アンケート結果）
- DVの深刻化や女性の貧困問題等が全国的な課題となっており、非正規雇用者やひとり親世帯、若年女性など、社会的に脆弱な立場にある人々への影響が顕著となっている。（統計結果）
- 市で実施している「女性生き生き相談」は、専門の女性カウンセラーが相談対応しているが、認知度は25.3%と低い状態である。（アンケート結果）